

みなべ町“千里の浜”において自然開花（2009年夏季）した グンバイヒルガオ（ヒルガオ科）の記録

田名瀬 英朋*・久保田 信**

熱帯や亜熱帯の海浜に自生するグンバイヒルガオ *Ipomoea pes-caprae* (L.) SWEET は、関東以西の本州域における海浜では対馬暖流や黒潮によって運ばれた種子の漂着による発芽株のみで、その多くは冬季の気温低下によって1年未満の生育で枯死しているものと推測されている（中西, 1987, 2008；三幣, 2006）。

和歌山県沿岸においても漂着した種子から発芽した株のみが確認されており、その多くは最初の冬季中に枯死し、1年未満の生育に止まっている（久保田・榎山・田名瀬, 2010）。越冬に成功し、複数年にわたる生育例の確認は少なく（田名瀬・久保田, 2009）、九州（宮崎県高鍋町）や四国（徳島県海部町）の海浜域のように経年的な開花や種子の形成は確認されていない（西村, 1981；中西, 1987；小川, 2011）。

そのため、本州域海浜での開花例は少なく、日本海側では福井県敦賀市大比田の横浜海岸において自然開花（2011年10月）が確認されている（流れ物通信・Blog 版, 2011）。太平洋側では千葉県南房総市（2004年8月）があるが、開花中の写真と撮影地のための記述のため詳細は不明である（富塚, 2008）。南房総市の株を海浜での自然開花例とすると、本州域では2例の自然開花海岸が報告されていることになる。

今回、筆者らは和歌山県日高郡みなべ町の“千里の浜”（砂質浜の長さは約1,300m）において、本種が2009年夏季に自然開花しているのを確認した（図1）。本州の海岸としては3例目、和歌山県下としては初めての自然開花になるので記録しておく。

開花株の記録

みなべ町の“千里の浜”における開花調査は、



図1 グンバイヒルガオの開花
（千里の浜：2009年9月10日撮影）

田名瀬・久保田（2009）が自生を確認した大型株（個体番号I）について2008年12月から枯死した2010年2月の期間は、毎月1回（開花期中は2から3回）生育状況を観察した。観察株は、細砂質の海浜で満潮線から主根場所までの水平距離が19mの潮上帯にあった。2008年12月の時点で最大茎長は490cmあり、前年の冬季を越えて生育を継続しており、2008年12月の時点で発芽後1年以上を経過している可能性が高い（田名瀬・久保田, 2009）。周辺部にはハマヒルガオ *Calystegia soldanella* (L.) ROEM. et SCHULT.・ハマゴウ *Vitex rotundifolia* L. fil.・ハマダイコン *Raphanus sativas* L. var. *hortensis* BACKER f. *raphanistroides* MAKINO が自生している。

2009年における開花の推移を表1（いずれも調査の時間帯は午前11時から12時の間）に示す。

表1は、毎日の観察ではないので開花の実数は不明である。しかし、開花の近い蕾数の集計からすると8月下旬から10月上旬にかけて100近

くの開花があったものと思われる。また、開花の近い蕾数に比して開花中の花数が少ないのは、早朝に開花したものが昼前には萎れていることが多い結果と思われる。結実の有無についても注意して観察したが、すべて結実しなかった。単独株での開花だったため、受粉が出来なかった可能性がある。

表1 グンバイヒルガオの開花推移
(2009年:みなべ町“千里の浜”)

観察月日	開花の近い 蕾数	開花数	花卉の萎れた 花数	結実数
8月11日	0	0	0	0
26日	8	0	0	0
9月10日	約40	2	1	0
17日	33	2	12	0
24日	約30	4	3	0
10月9日	0	3	0	0
23日	0	0	0	0

“千里の浜”には、他に3株（個体番号Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ）、本種の自生を確認（田名瀬・久保田、2009）しており、それぞれの株についても開花の有無を継続観察した。しかし、発芽後1年未満の小型株のためか、冬季に枯死するまでの間、蕾を形成することもなく開花の気配は全くなかった。

おわりに

本種の文献について種々のご教示をいただいた檜山嘉郎氏（元京都大学瀬戸臨海実験所技官）、田辺市立図書館、和歌山県立図書館（紀南分館）に感謝いたします。

引用文献

- 檜山嘉郎・久保田 信・田名瀬英朋. 2009: 和歌山県白浜町で最近発見された若いグンバイヒルガオ（ヒルガオ科）. *Kuroshio Biosphere*, 5(1), 23-25.
- 久保田 信・檜山嘉郎・田名瀬英朋. 2010: 和歌山県白浜町の3箇所に发育したグンバイヒルガオ（ヒルガオ科）は初回の越冬できず. *南紀生物*, 52(1), 61-62.
- 三幣良信. 2006: グンバイヒルガオとハマオモトが富津に生育. *千葉県植物誌資料*, 21, 186.
- 流れ物通信-Blog 版. 2011: グンバイヒルガオ、浜に咲く（10月29日付）.
- 中西弘樹. 1987: 日本本土におけるグンバイヒルガオとハマナタマメの分布と海流散布. *植物地理・分類研究*, 35, 21-26.
- . 2008: 海から来た植物. 319pp. 八坂書房, 東京.
- 西村三郎. 1981: 無効分散の問題 *in* 地球の海と生命（海洋生物地理学序説）. 140-147. 海鳴社, 東京.
- 小川 誠のページ（徳島県立博物館のウェブサイトから）. 2011: グンバイヒルガオの謎—分布の北上は地球温暖化のせい？—.
- 田名瀬英朋・久保田 信. 2009: 和歌山県みなべ町で最近発見された大型のグンバイヒルガオ（ヒルガオ科）. *南紀生物*, 51(1), 22-23.
- 富塚朋子. 2008: グンバイヒルガオ *in* 海辺の植物を観察しよう（海の生きもの観察ノート⑦）, 31pp. 千葉県立中央博物館分館.
- *（〒649-2211 西牟婁郡白浜町676）
- ** 京都大学フィールド科学教育研究センター
瀬戸臨海実験所
（〒649-2211 西牟婁郡白浜町459）